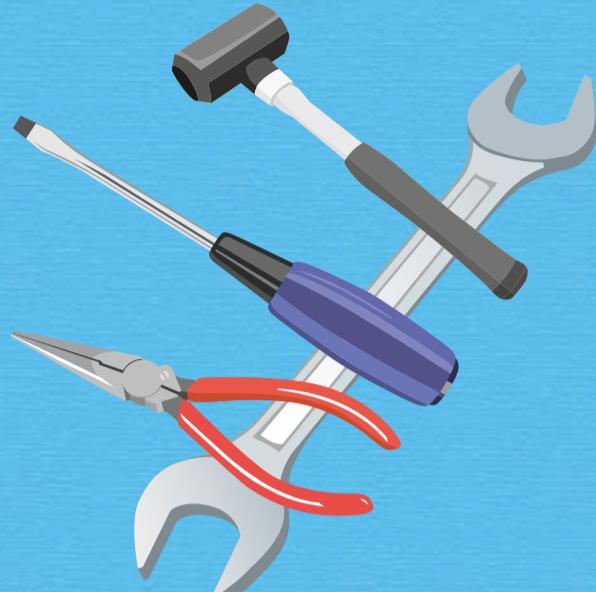


DIY



壁への吊るし方、取り付け方

時計や額を飾ったり、棚を取り付けて収納スペースを増やしたりと、壁はいろいろな用途で使えます。しかし、正しい取り付け方をしないと、急にはずれてしまうこともあります。壁の材質、構造を知って、それにぴったりなフックを選んで、きちんと取り付けることが大切です。

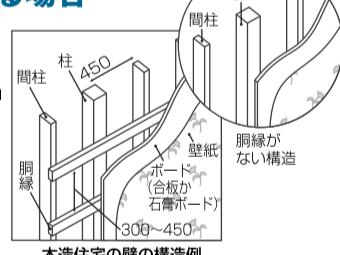
石膏ボード、合板張りの壁

下地の桟に取り付ける場合

●壁の構造

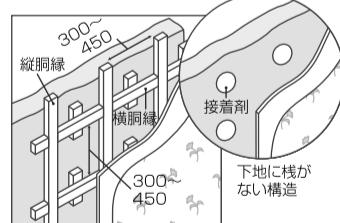
《木造住宅の場合》

間柱は45cm間隔、胴縁は30~45cm間隔にあり、どちらかが壁に接していることが多いので、それを目安に探すとよい。ただ、家によって構造が違うこともあるので注意。



《コンクリート住宅の場合》

ボードを叩いてみて空洞の音がするようなら下地に桟があると考えられる。その場合は、木造住宅と同じようにして桟を探せばよい。また、コンクリート住宅の場合は、ボード張りであっても接着剤でコンクリートに固定していく下地に桟がないことがある。その場合は、叩いたときに接着剤がついている箇所だけ固い音がする。固い音のする範囲が丸い場合は、この工法と考えられる。



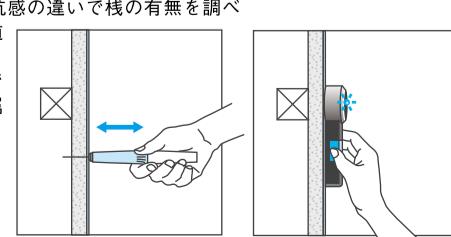
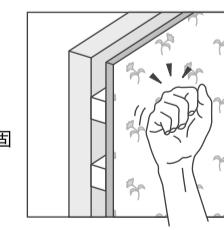
●桟の探し方

《壁を叩いて探す》

手の甲などで叩いてみると、詰まったような固い音がする箇所に桟があると考えられる。

《器具で探す》

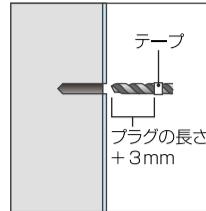
叩いてわかりにくい場合は、より正確に桟の位置を知りたい場合は、壁に押し付けると針が出て、その抵抗感の違いで桟の有無を調べることができる道具を使うと便利。また、センサーで壁裏の木材、金属などの位置をキャッチして光で知らせる器具もある。



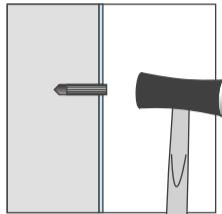
コンクリート壁

コンクリート住宅の場合、コンクリートに直接壁紙を貼ったり、塗装していることがあります。叩いてみて、明らかにコンクリートの音がする場合は、そんなケースだと考えられます。そのような工法の場合も、ドリルで下穴を開けてコンクリートプラグを叩き込めば木ネジやヒートンなどを付けることができます。コンクリートプラグには、使う木ネジのサイズと下穴の径が表示されているので確認してから購入してください。

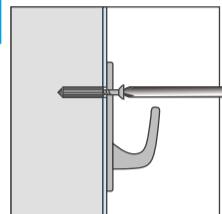
- 1 電気ドリル（あれば振動ドリルのほうが楽）にコンクリート用の刃をつけ、低速回転にして穴を開ける。下穴はプラグより3mmほど深くあけるように。穴あけの深さの目安に、ドリルの刃にビニールテープなどを巻いて使うとわかりやすい。



- 2 下穴にプラグをカナヅチで叩き込む。

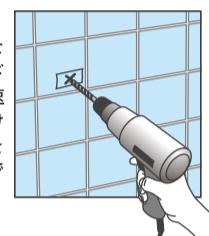


- 3 木ネジやヒートンなどのネジ式フックなどをねじ込む。



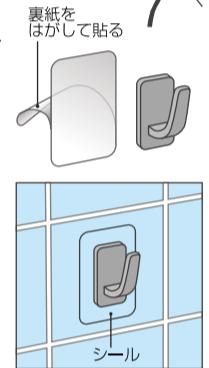
タイル壁

コンクリート壁と同じように、下穴を開け、コンクリートプラグをたたき込んでフックなどをつけます。下穴を開ける場合は、電気ドリルにガラス用、タイル用の刃を使って低速回転でゆっくりと。また、タイルは穴のあけはじめ時に刃が滑ります。セロハンテープを貼ってから穴あけにかかれば、あけやすくなります。



●粘着タイプ、吸盤タイプ

タイルに穴を開けたくない場合は、粘着タイプ、あるいは吸盤タイプのフックやタオル掛けを使うとよい。どちらの場合も取り付けるタイル面をきれいに拭いてから取り付けること。粘着タイプの場合は、よく乾燥させたのち、浴室用に付属している透明シールを貼ってから貼るようにすると水滴がかかるかもしれません。また、がたがたしたときはシールごと、きれいにはがせる。この透明シールは別売りもされているので浴室以外の場所、例えばスマートフォンなど表面がツルツルとしている面に粘着フックなどを貼り付ける場合の下貼りにも使うことができる。



壁への吊るし方、取り付け方

One Point Advice

ネジのゆるめ止め

ネジは一度ゆるみはじめると、何度も締め直さないといけなくなります。そんな場合、便利なのが、ネジのゆるめ止め剤。金属製のネジやボルトにしか使えませんが、ネジをはずして汚れを落としてから、ネジ山にゆるめ止め剤を数滴つけてネジを締め直せばOK。はみ出した液をすぐにふき取ること、固着するまで1~2時間は動かさないでおくことがポイントです。しかも、接着しているわけではないので、ドライバーを使って緩めることもできます。



空洞部分に取り付ける場合

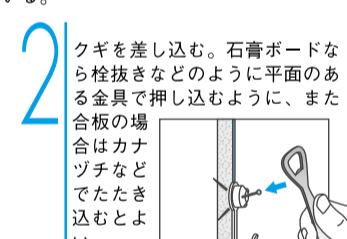
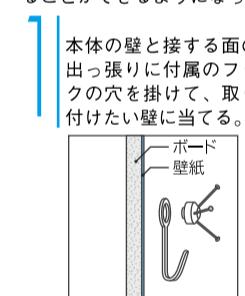
壁に額や時計などを取り付たいけれど、ちょうどよい位置に桟がない、という場合があります。下地に桟がある壁の場合、桟がない場合は空洞（中空構造）になっていて、そのままではネジ止めをしてもすぐに落ちてしまいます。そんな場合は、壁の空洞部分にもしっかりと固定できるアンカーなどを使ってフックを固定しましょう。ここで紹介する他にもいろいろな種類のアンカーがあるので、説明書きを読んだり、お店に相談するなどして、壁の構造や吊り下げるのに合ったものを選んでください。

●Xフック

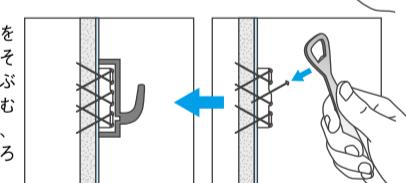
空洞部分に額を吊るための金具。ピンが斜めに差し込まれるようになっており、それによって下にかかる力に強くできている。ピンが1本のもの、2本のもの、3本のものがあり、額の重さによって選ぶことができる。また、最初からピンが斜めについているフックもある。

●石膏クギ

本体に斜めに穴があいており、その穴に細いクギを差し込むことで、フックを石膏ボードや合板にしっかりと止めることができるようになっています。



取り付けピースの穴にクギを差し込んで固定してから、そのピースにフック本体をかぶせてスライドさせてはめ込むタイプもある。フックの他、タオル掛けなどもあり、いろいろ便利に使える。



●ソリッドアンカー

壁に下穴を開けて、アンカーを差し込み、急結剤を注入してから木ネジ止めをするという方法。壁厚に関係なく使え、アンカーの周囲を急結剤で固めるので強度もある。また、何回でも取り外し、取り付けが可能。ネジの径に合わせて3タイプの大きさがある。

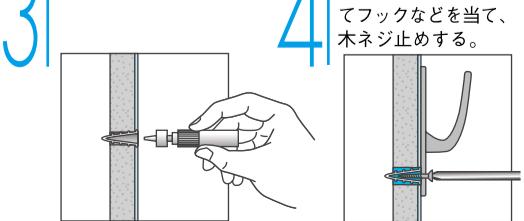
- 1 下穴を開ける。小さなタイプなら直径3~3.5cmの穴でよいので、千枚通しながら作ることができます。また、木ネジなどを一度壁にネジ込んでからはずして下穴にしてよい。



- 2 アンカーの中央部を折り曲げて下穴に差し込む。



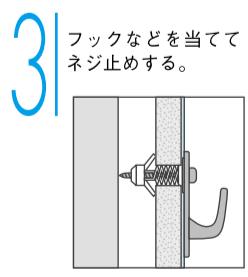
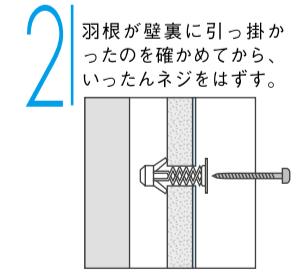
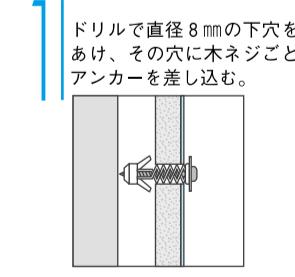
- 3 緊結剤を注入する。



- 4 下穴の位置に合わせてフックなどを当て、木ネジ止めする。

●モノマックス

ドリルで開いた下穴に木ネジごとアンカーを差し込んで、アンカーについている羽根を開いて壁裏に引っかけて固定するという仕組み。使用できるネジ径は4mmで、長さを変えれば1つのサイズで5~26mmの壁厚に使用できる。また、コンクリート住宅で下地に桟がないような、壁の空洞が狭い場合にも使える。



●トグラー

アンカーの先が開いて羽根になり、壁裏に固定できるタイプ。壁厚に合わせて3サイズあるので、スイッチプレートなどをはずすなどして、壁の厚さを確認してから購入を。

